

かかりつけ医・家庭医のための 目から鱗の症例アトラス SpPin な身体所見

日時：平成23年12月11日（日）10:00～15:00

講師：須藤 博 大船中央病院 副院長

場所：すみだ産業会館

本年最後のMHS医学臨床セミナーが12月11日、東京都墨田区のすみだ産業会館において大船中央病院 副院長 須藤博先生を講師に迎え、「目から鱗の症例アトラス SpPin（スピン） な身体所見」をテーマに開催いたしました。

身体所見に加え、患者が発する特徴的な言葉や特徴的な病歴から診断に至る！

SpPin とは「特異度（Specificity）の高い所見が陽性（Positive）の時、その疾患の診断（rule In）に役立つ」という意味の略語で須藤先生の造語です。その逆が「SpNout（Specificity Negative rule Out）」で特異度の高い所見が陰性だとその疾患は除外できるという意味です。

先生がお読みになってとても参考になったと紹介された本として「Clinical Reasoning（臨床推論）」を挙げられその本には以下の重要性が掲載されているそうです。

1. 診断仮説の想定
2. 診断仮説の修正
3. 検査と解説
4. 病態生理に基づく推論
5. 診断仮説の検証

その中でも特に1の「診断仮説の想定」が大事で、これが思いつかなければ診断には至らないとおっしゃいます。

4時間の中で多くの症例を紹介していただきました。最初は「爪」。以前海外から研修に来た先生が「爪だけで20の病気がわかる」といわれたそうですが、それ以降、須藤先生も診察に爪を見るようになったと言います。

Terry nail（テリーネイル）は肝硬変のサイン、Lindsay nail（リンゼイネイル）は腎不全を疑う

など様々な詰めめ症状から特異度の高い疾患を紹介していきましました。

他にも眼瞼結膜の点状出血は感染症性心内膜炎、手掌皮溝蒼白があれば98%の特異度で貧血があり出血を疑う必要がある。強度の貧血では皮膚は黄色く見える。腹部を横から見て臍を中心とした形状の違いから様々な疾患を疑うなど、目で見ての特徴的な症状と診断とを紹介されました。



特異度の高い症例写真から疾患を挙げる須藤先生

「あにてん」

また、看護師がカルテに「ア〜〜〜」と患者が発したと記載したのを見て、患者の様子が推測されると感じた経験や、広島某先生から聞いた話としてインフルエンザの患者が「いつもの風邪と違う」と訴えることがあるが、待合室で座っていられず思わず横になっている風邪症状の患者は、ほぼまちがいでなくインフルエンザだったとの経験談を紹介されました。

次回セミナーは来年1月15日、富山大学附属病院 和漢診療科の野上達也先生によりまず知っておくべき漢方医療の基礎知識「漢方総論と風邪の漢方治療」を開催いたします。